

# まちと港の『リビング』としての新旅客ターミナル

瀬戸内の旅客ターミナル 『三原モデル』



「三原内港再生実施計画」を忠実に踏まえ、「三原の『海と街の顔』としての旅客ターミナル；居心地よく、美しい施設／建築」をつくります。

- 上位計画や行政意向との綿密な調整／確認。
- 進捗段階ごとの設計成果の点検／見直し。
- ランドスケープ／街づくりデザインなどの各専門家の知見の反映・活用。
- 市民との対話を欠かさぬ開かれた設計姿勢。
- 実務経歴35年の豊富な実績と、新しい建築作品への高い意欲を持つ設計チーム。
- 積極的なデジタル技術の活用。

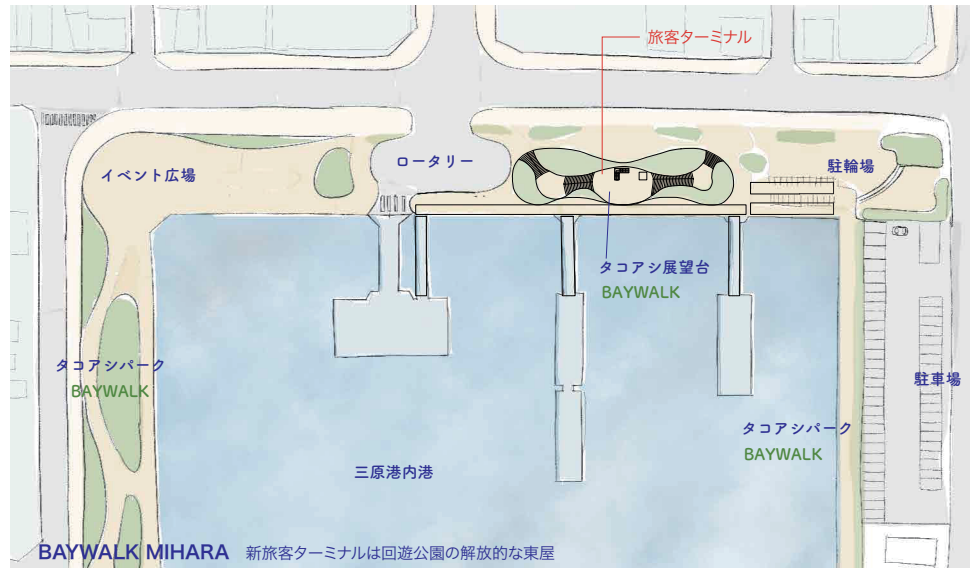
## 〈テーマ1〉

### 三原港に浮かぶ『緑とガラスの丘』

新しい旅客ターミナルのイメージ／ランドスケープデザインを、「非・箱物的景観」=『草花や低木で覆われたガラス張りのなだらかな丘の建築』として提案します。それは、三原駅周辺の賑やかな街並みとも内海や島並みのおおらかな風景とも一線を画しつつ、響きあい調和させようとする景観デザインの試みです。



ランドスケープ 緑に覆われたガラスのパビリオン



BAYWALK MIHARA 新旅客ターミナルは回遊公園の解放的な東屋

## 〈テーマ2〉

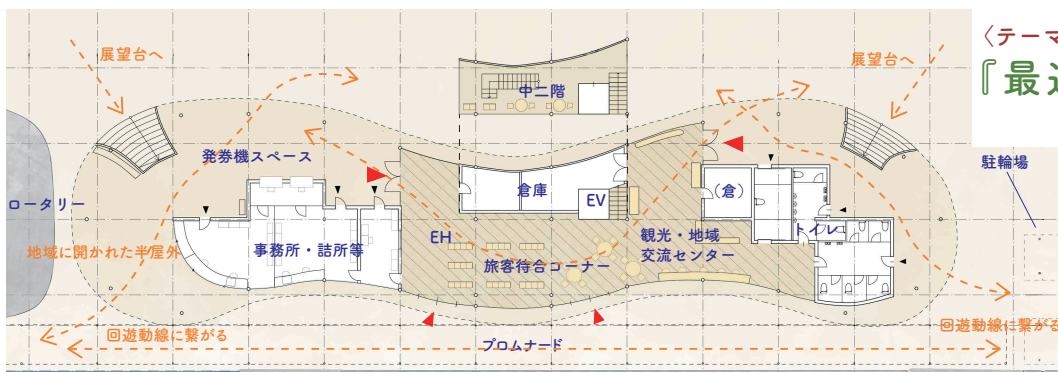
### 『BAYWALK MIHARA』

—憩いと健康増進のエリア

内港を囲み、フラットでwalkableに整備される「回遊公園」には、その中心に「大きな『東屋』としての新旅客ターミナル」が作られます。この公園とターミナルは「水際沿いに涼しい風が通る『市民の新しい憩いと健康増進の拠点』」です。



ロータリーから見る旅客ターミナル



プランイメージ 高校生から観光客まで人々が港を眺めながら時間を過ごす『居場所』

## 〈テーマ3〉

### 『最適解』としての施設建築

「瀬戸内の歴史や環境風土を踏まえ、かつ斬新でナチュラルな存在感」、「コンパクトで機能的な動線計画／配置・平面構成」、「適切なハウスキープにより保持される持続的な耐久性」／「無駄のない事業費・無理のない工程」など、合理的で実現性の高い施設づくりを設計でサポートします。